

気がつけば2020年も終わりにさしかかりました。皆さんにとっていかがな年でしたでしょうか? パンデミックと大統領選挙が今年の強い印象に残ります。経済活動の維持と人命を両天びんにかけた激動の2020年だったと思います。8月号記事で紹介した逸話のとおり、政治的判断で感染症被害の大小が決まることが分かりました。主筆時点でのCovid-19の死者数は25万人。もはやただの風邪で済む話のレベルではありません。そして、パンデミック対策と大統領選挙の行く末との関連は逸話どおりだと痛感させられました。ぜひ今号を読む前にもう一度8月号記事を読み直していただければ幸いです。

▶現場体験記 その2

筆者は今年、学生医師として現場に入りました。第1波が収まり少し落ち着きを見せた6月下旬に病院実習が始まり、異様な現場を体験しました。当初のことは8月号にも書かせていただきましたが、今回はその続編だとお考え下さい。実習では内科、総合診療科(ファミリーメディスン)、外科、小児科を各6週間それぞれローテーションしました。道中、第2波が襲来し、落ち着いたと思つた矢先に第3波が襲いかかりました。うなぎ登りに増加する感染者数と死者数は大変深刻です。第三波の猛威は医療従事者を疲弊させています。死者数は過去2、3週間の感染者数を反映するため、今年はとても厳しく悲しい冬になるでしょう。未だパンデミックを真剣に捉えていない人たちの心情が私には理解できません。根拠のない不安感に對しても憤りを感じます。先が見えない不安感と医療崩壊の懸念を抱き「お願いだからこれ以上コロナ重症患者が増えないで!」と願う日々。葛藤しながら筆者を含め医療従事者は現場で一生懸命働いております。

内科の実習で朝早く病院に入り、朝一番のチームミーティングで必ず聞く話が「昨日は何人Covid-19で亡くなり、何人が新たに入院し、その内何人が集中治療室に入ったか」です。最初は感情的に反応していた自分ですが、徐々に無反応になり、どこかごとのように聞いている自分に対して嫌気がさしました。スタッフルームに社会的距離なんて全くない。N95マスクや防護服も一回使い捨ては言語道断。物資不足なので使い回しが通例です。四六時中マスクをしているので鼻と口元を解放出来る唯一の空間がスタッフルーム。なので、ここでのマスクの着用ルールはとてもあやふやという、あるまじき暗黙の現場ルールに…。

総合診療科は町医者修行なので診療所とアージェントケアを回りました。やって来る発熱患者はみんなコロナ感染疑惑付きで、迅速検査を行

うことが非常に多かったです。感染した人や過去に感染した人を診ることも多々。病院外でのフロントラインはこういうことが起きているのか…と恐怖しました。

新型コロナの有無に関係なく、手術が必要な患者はたくさんいます。第二波が少し落ち着いた頃に外科実習に入り、最初に参加したのが移植チームでした。入院患者の状態はとても悪く、ほとんどが集中治療室入りです。15人ほどの患者をチームで診ますが、移植手術に間に合わずに命を落とす患者を何度か目の当たりにしました。悲報を受けて泣きじゃくる家族。ひと段落したと思つたら、亡くなった患者の部屋は空っぽになり、その廊下を素通りする筆者。もう次の日には新しい患者がその部屋に入室しているという目まぐるしい命のやり取りを目撃しました。実習期間が経つにつれ、このような命の交差に慣れていってしまう自分。命を数のみで受け止め、尊厳や患者の人生など、命を質で考えていなくなっているのではないかと自問自答し、苦悩しました。命って数では確かにひとつ。でも命を惜しむ家族の姿を見ると決してひとつとは言えない。筆者が苦悩する中、同時に、臓器で繋ぐ命のバトンリレーという素晴らしい経験もしました。

移植手術は、いつ、だれから臓器移植が行われるかまったくわかりません。ある日突然連絡が入り、ドナーから心臓、肺、角膜、肝臓、腎臓、そして脾臓を取り出す調達&摘出手術に急遽参加しました。緊急車両に搭乗し、大学病院から40分離れた病院へ向かいました。手術前にスタッフ一同が感謝と黙祷を捧げる中で、筆者は静かに合掌しながらドナーへの敬意と感謝の意を心の中で述べました。開胸&開腹を即座に、同時進行で行い、解放されたドナーの身体から沢山の臓器がさらけ出された姿は鮮烈で脳裏から離れません。鮮度が重要な移植は取り出すぎりぎりまで心臓は動かしたままにします。健気に力強く鼓動を打ち続ける心臓にはどこか愛着が湧きました。生きるために必死に働き続ける心臓の姿は生命そのものを代弁しているかのようで、感無量でした。

摘出後は直ぐに氷水袋に大事に包まれ、各臓器必要な患者の元へ運び出され、命のバトンリレーが行われました。第二助手として立ち上がった摘出手術は筆者の一生忘れられない経験です。新しい臓器を得たレシピエントは感謝の気持ちを胸に第二の人生を歩み始めます。

手術室の外は新型コロナが蔓延した世界。正直、自身も感染したのではないかと幾度かひやりと不安な気持ちになりました。実習途中で何人もクラスメイトがコロナに感染し自主隔離。一緒に働いたチームの医師が検査で新型コロナ

陽性反応が出たというメールが、チームを離れて2週間後に届いたりもしました。つい最近、小児外来で一緒だった小児科医師は、陽性結果と判明し隔離しましたが、人手不足なので即の現場復帰が求められたとのこと。コロナ陽性の小児患者も増えています。学校から求められている月一度のPCR検査は、気づいたら二週間一度と頻度が増え、筆者もすでに数十回も検査を受けています。奇跡的に陽性になったことは一度もないのですが、やはりマスクのお陰だろうと実感しています。

現場に入って多くの患者と直接話す機会が増え、命って何だろう…?と考えます。易々と何人亡くなって、何人感染したと頭の中で処理して良いものだろうか? いざ患者の話にじっくり耳を傾ければ、さまざまな生き様が浮かびあがる。昔は弁護士だったがアル中となり、いつの間にか病院にいたとか…。みんなそれぞれ病気になるまでの過程があり、物語があります。誰だって病気がかりたくないし、本意なら死を望みたくはない。病気に直面し、必死に生にしがみついている病院へやって来た入院患者から生々しい話を聞かされた時に人の命について深く考察させられました。

▶コロナワクチン来たる!

11月18日、ファイザー社ワクチンの最終解析結果は新型コロナ感染の予防に約95%の有効性が確認されたと発表し、緊急使用許可(EUA)をFDAに申請しました。また、モデルナ社ワクチンも中間解析で約95%の有効性が確認されています。両社共にmRNAワクチンで最低3~4週間隔の2回接種が必要です。(詳細は10月号参照)この結果をどう捉えたら良いでしょうか?国立感染症センターの感染症専門医の忽那(くつな)医師はこのように説明しております。

『ワクチンの予防効果とは、「ワクチンを接種した人が、接種していない人と比べて、どれくらい感染を減らせたか」を意味します。例えば、40000人の参加者のうち、20000人がワクチン接種群、20000人がワクチン非接種群に割り付けられたとして、非接種群では50人感染したのに対し、ワクチン接種群では5人しか感染しなかった、という場合に「感染してはいたはずの45人(90%)の感染を防いだ」という意味で90%の予防効果があった、と表現します。』

ちなみにインフルエンザワクチンの予防効果は通常50%程度です。ワクチンを接種しても感染してしまうのはそのためです。だからと言ってインフルワクチンを受ける必要性がないというのはお門違いです。何故ならばインフルワクチンは重症化を防ぐことが分かっているからです。

Covid-19もインフルエンザ同様、呼吸器感染症であることからワクチン承認を行うFDAは予防効果50%以上を承認の判断基準にしています。今回の発表はこれを大きく上回る結果が示されたわけです。さらに、最も効果が高いワクチンの一つとして挙げられる麻疹ワクチンの予防効果は95%とされています。今回の発表には懐疑的な見方もありますが、忽那医師も今回の発表を『良いニュースと考える』と述べているように、依然として猛威を奮い多くの命を奪う新型コロナウイルスに対する有効な手段がない中、この結果はポジティブに受け止めましょう!

そして気になるのは、ワクチン効果の持続期間、重症化予防、高齢者や基礎疾患のある人への効果や、安全性についてですが、通常ワクチンから得る免疫は感染で得た自然免疫より強いのは稀です。持続期間についてはまだ不明で長期的な検証が必要です。各社3~4万人規模の被験者で第三相試験を行いましたが、まだ分からないこともあります。実際に皆さんに引き渡されるようになることで分かる副作用もありえます。ですがコロナワクチンだけに限らず、全ての治療薬や既存の薬もこのような懸念や未知と闘いながら日進月歩を繰り返しております。ファイザー社ワクチンは、65歳以上の有効率が94%と発表され、重症化も防ぐことが期待できそうです。対する小児患者ですが、ファイザー社の試験では12歳以上が参加していたので、認可されれば12歳以上から接種出来るかもしれません。12歳以下への有効性及び安全性は検証が必要です。筆者が小児科実習を行った子ども病院ではその小児向けの検証が現在行われております。

10月号記事にも書きましたが、ファイザーワクチンは極低温のセ氏マイナス70度以下で保存されなければならない、配送や接種機関での保存法や各州や町への分配方法など、解決すべき問題が山積みですが、希望に満ちたニュースではあります。緊急認可などのプロセスがスムーズに行われた場合、今月中から接種開始される見込みです。一回接種で済むJ&Jワクチンの第三相試験も活発に行われ、筆者が在籍する大学病院主導で検証されております。現職大統領のコロナ治療に使用された抗体カクテル医療もFDAから緊急認可され、ワクチン以外の治療法や選択肢も増えました。

冒頭から暗く重い話で恐縮でしたが、パンデミックには必ず終わりがあります!長いトンネルに出口は必ずあります!引き続き防疫の徹底よろしくお願ひ致します。どうか皆さんが無病息災で年末年始を迎えられますよう心より願っております。